



東九州自動車道「佐伯～延岡」間の整備と地域の取り組み

国土交通省 九州地方整備局 佐伯河川国道事務所

1. はじめに

東九州自動車道（以下、東九州道）は、北九州市を起点に大分県、宮崎県を経て鹿児島に至る延長436kmの高速自動車国道です。近年、東九州道では開通ラッシュが始まっており、平成26年度には北九州市～宮崎間がつながる予定です。西九州地域では、九州縦貫自動車道が平成7年7月に全線開通し、平成23年3月には九州新幹線も全線開業したのに対し、東九州地域では、高速道路の欠如やJR日豊本線の複線化の課題（大分以南が単線）など高速交通体系が著しく立ち後れしており、東九州道の整備は地域住民の長年の悲願となっています。

本稿では、当事務所と延岡河川国道事務所が取り組んでいる「佐伯 IC～延岡南 IC」間の建設状況や部分開通効果、そして開通を待ち望む地域の取り組みについて概況を紹介します。



図-1 九州の高速道路網図（H 26年3月末現在）

2. 東九州道「佐伯 IC ~ 延岡南 IC」の概要

「佐伯 IC ~ 延岡南 IC」間は、延長が約 67km の 2 車線道路です。最大の特徴は通行料が“無料”ということで、8 個の IC が設置されます。この間の整備手法は、「佐伯 IC ~ 北川 IC」間が新直轄方式、「北川 IC ~ 延岡南 IC」間が高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路として整備されています。これまで、平成 17 年度に「延岡 JCT ~ 延岡南 IC」間、平成 24 年度に「須美江 IC ~ 延岡 JCT」と「蒲江 IC ~ 北浦 IC」間、平成 26 年 3 月 8 日には「北浦 IC ~ 須美江 IC」間が開通しており、平成 26 年度中に「佐伯 IC ~ 蒲江 IC」間が開通予定です。



写真-1 大分・宮崎県境付近の並行県道



写真-2 整備された東九州道
(大分・宮崎県境付近)

次に、現在、工事のピークを迎えている「佐伯 IC ~ 蒲江 IC」間について概況を紹介します。この間の延長は約 20.4km、道路幅員は 12m です。主に山間部を通過しますので、トンネルが 9 本、橋梁が 15 橋と多く、全体の 5 割強が構造物です。平成 26 年 2 月 8 日には、北九州市から宮崎間にあるトンネル（68 本）のうち最後となる「佐伯トンネル」の貫通が関係者の見守る中実施され、この区間もいよいよ大詰めを迎えています。



写真-3 東九州道の建設状況



写真-4 佐伯トンネル貫通状況

3. 部分開通の効果

平成24年度に開通した「蒲江IC～北浦IC」と「須美江IC～延岡JCT」間の開通効果について、二つの視点で効果を紹介します。

(1) 観光への支援

当該区間の開通により、蒲江～北浦間が約30分短縮したこと等から、地域の主要な観光施設の入込み客数が平均して約4割増加しています。道の駅の店長さんからは、「県外からのお客さんが増え、特に延岡や日南方面からたくさん来られているようだった。未開通区間の早い開通を期待します（道の駅かまえ）」、「特にゴールデンウィークは、今までにないお客様の多さで、交通整理をしなければならないほど盛況だった。東九州道が開通したことの影響は大きいと思う（道の駅 北浦）」等の声が聞かれました。

沿線の観光施設の入込み客が大幅に増加！

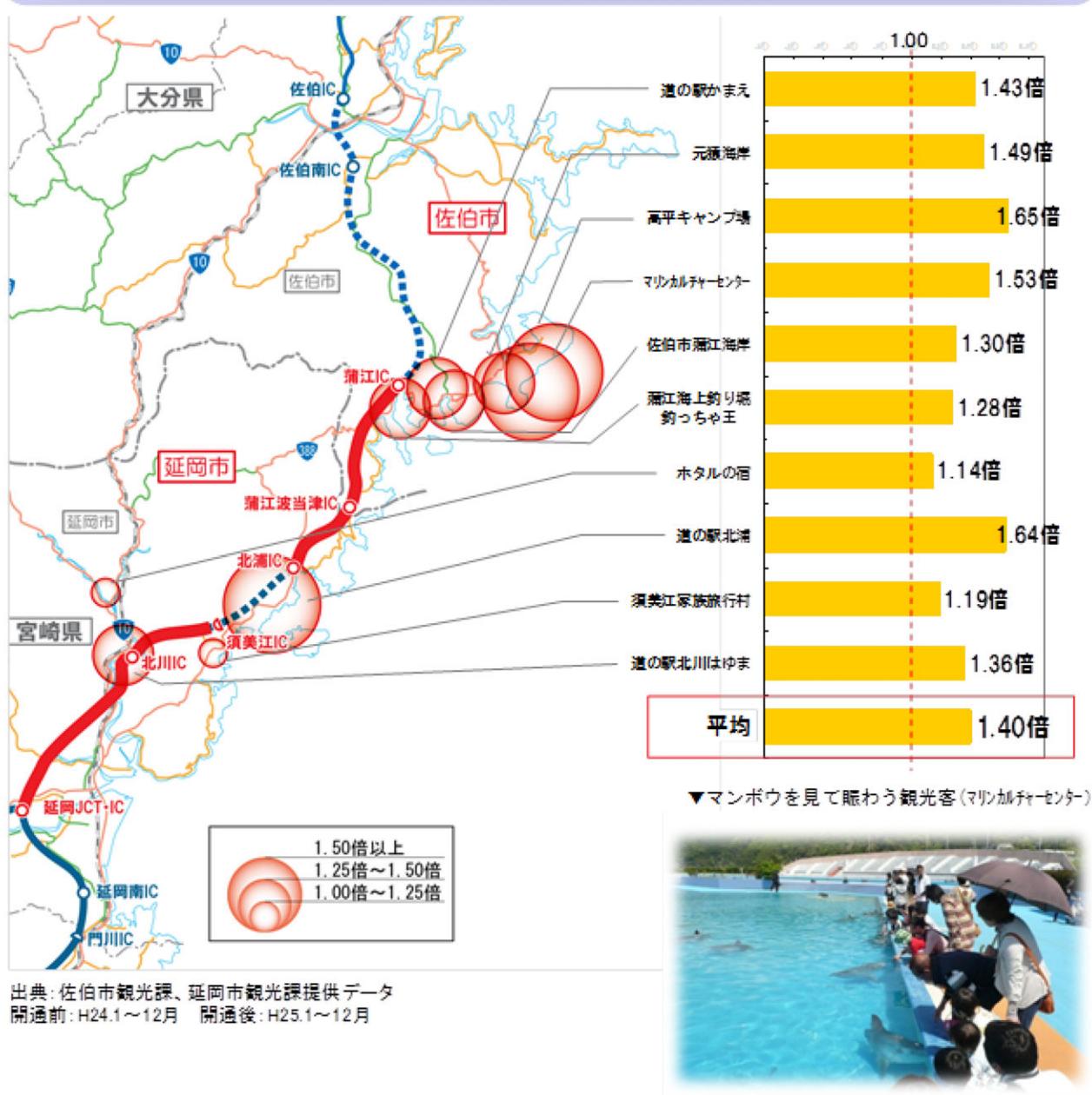


図-2 主要観光施設の入込み客数の伸び率（東九州道開通前後）

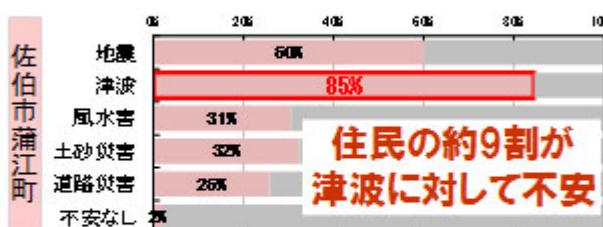
(2) 防災への支援

佐伯・延岡地域は南海トラフ地震による津波浸水被害が想定されており、佐伯市蒲江の住民の約9割、延岡市北浦町の住民の約6割の方が津波に対して不安を抱いていました。今回の開通により、約4～5割の住民の津波に対する不安が解消され、「命の道」として期待されています。当該区間では、緊急時の避難や緊急車両派遣等のため、緊急連絡路や避難階段を設置し、地域住民の安全・安心の確保に努めています。

一方、高速道路が全線つながっていないことが不安材料の一因との意見もあり、1日も早い開通を目指しています。

開通前は津波への不安が高い

Q. お住いの地域でどのような災害に対して不安がありましたか？

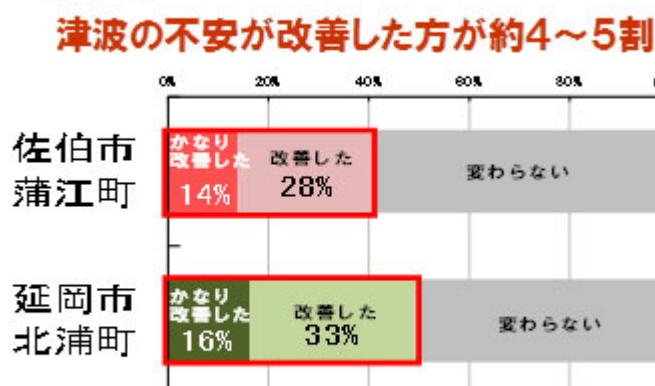


▲住民アンケート調査結果(H25.8.14～8.30) 有効回答数:蒲江497世帯、北浦432世帯(複数回答可)

開通により不安が解消した方が約4割！

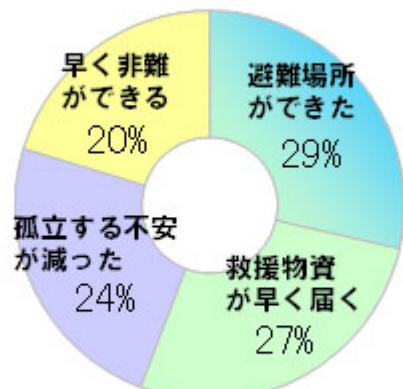
災害への備えができ、不安が改善！

Q. 津波が不安な方にお尋ねします。不安は改善しましたか？



▲住民アンケート調査結果(H25.8.14～8.30)
有効回答数:蒲江388世帯、北浦252世帯

Q. 改善した方にお尋ねします。不安が改善された理由は？



▲住民アンケート調査結果(H25.8.14～8.30)
有効回答数:385世帯(複数回答可)
(蒲江、北浦の津波の不安が改善した方を対象)

図-3 防災に関する住民意識調査結果

緊急時の避難場所を東九州道沿線で確保！



図-4 東九州道沿線の緊急連絡路と避難階段

この他、当該区間の効果として、「救急搬送患者の負担軽減」や「住民の道路に対する満足度の向上」が見られました。平成26年度には、北九州市から宮崎までつながる予定であり、高速道路本来の物流支援や産業支援など様々な効果が期待されています。

4. 高速道路のつながりを活かした地域の取り組み

当該地域では、東九州道（北九州市～宮崎間）が全線開通した時、「素通りされない」魅力ある地域を目指して様々な取り組みが行われています。ここでは、ユニークな地域の活動を紹介します。

(1) 東九州伊勢えび海道事業

当地域は、日本風景街道九州ルートの一つ「日豊海岸シニック・バイウェイ（蒲江・北浦大漁海道）」のエリアも含まれます。当ルートでは、ブルーツーリズムによる活動が盛んであり、特に東九州伊勢えび海道事業は10周年を迎えた看板事業です。本事業は、大分県佐伯市と宮崎県延岡市の共通の地域資源である「伊勢えび」を活用して地域おこしを行うものです。海道筋のお食事処では伊勢えび漁が解禁となる9月から3ヶ月間、新鮮な伊勢えび料理が食べられます。このお祭りでは、県境を越えた官民パートナーシップがキャラバン隊を結成し、両県知事や報道機関へのPR、各種イベントを実施しています。昨年度の「蒲江IC～延岡JCT」の部分開通により、実食数が前年比1.6倍となり過去最高を記録しました。



写真-5 東九州伊勢えび海道 抽選会

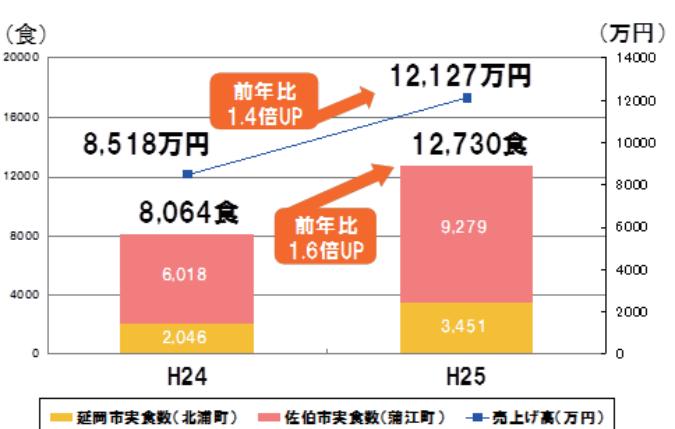


図-5 実食数・売上げ高前年比

(2) 佐伯市と延岡市の連携による広域観光推進と広報連携

両市の観光情報の相互提供等を目指して、Facebook を活用した情報提供や広域観光案内板、マップを整備しています。今後は、道の駅などの観光拠点に両市の観光案内を載せたデジタルサイネージ（電子看板）を設置予定です。また、両市では、東九州道の開通を契機に「広報連携による基本協定」を結んでおり、両市が持つ広報誌やケーブル TV の番組など情報ツールを相互活用し、イベントや特産品を互いに PR しています。



写真-6 広域観光案内看板



写真-7 かまえコンシェル

(3) かまえコンシェル

かまえコンシェルとは？「道の駅かまえ」で地域を紹介する案内人です。近年、道の駅は多くの観光客の方に利用されていますが、一方で、道の駅周辺の観光施設や地域資源が十分利用されていないのが実情です。かまえコンシェルは、道案内や食事処、旬の情報をきめ細かに紹介することで地域の端々まで魅力を PR しています。月平均約 800 件の案内をしており、蒲江を訪れる観光客の満足度もアップしています。

5. おわりに

東九州道 436km のうち約 142km が無料の高速道路となり、そのうち「佐伯 IC～延岡南 IC」が約 67km と無料区間の約 5 割を占めます。この“無料高速道路”の効果を最大限生かすために、「今後、この道路をいかに使うか」、地域にとって大きな課題と考えられます。我々道路管理者も地域住民の安全・安心や地域活性化のお役に立つように、これまで以上に地域と連携を図って参りたいと思います。

読者の皆様も是非一度、東九州道で当地域を訪れ、おいしい海の幸や美しい景観、暖かい人情をご堪能ください。